



～ 子どもの遊びに関する意識調査 ～

母親の半数以上 「自分の方が外で遊んでいた」**0歳児の2割が「自宅以外に遊び場ない」、全体の3割近くが「1人で遊ぶ」**

子どもの健全な成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売と遊び環境開発を行う株式会社ボーネルンド（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中西弘子）では、4月中旬に0歳（生後6ヶ月以上）から4歳のお子様を長子に持つ全国の母親1,030人にインターネット調査を実施しました。

当社では、5月5日の「こどもの日」を、子どもの健全な成長について大人全員が考える日とすることを提案し、社会全体が子どもの遊びの大切さや子育て環境を見直すきっかけにしたいと考えています。

近年、公園でのボール遊びの禁止や大声で騒ぐことの禁止といった自由な遊びの制限、核家族化や少子化による影響で、子どもの遊び環境に必要な“三間（時間・空間・仲間）”が減少しています。当社は、この“三間”を保障することが、遊びを通じた自己表現の達成や他者への配慮といった経験を生み出し、子どもたちの「こころ・あたま・からだ」の健やかな成長につながると考えています。今回はその一環として、子どもの外遊びの実態や母親の遊びや子育てに対する意識を明らかにするため、調査を実施しました。

【 調査結果のポイント 】

■ 子どもの外遊びの実態

- ほぼ100%の母親が外遊びの重要性を認識しながらも、近所の公園よりも「自宅/室内」で日常的に長時間遊んでおり、0歳児の2割が遊び場所は「(自宅以外には)ない」と回答
- 半数以上の母親が、自分が子どもだった頃の方が外で遊んでいたと回答しており、理由は「屋外の治安や安全面に不安がなかった」（64.9%）、「近所に屋外で一緒に遊ぶ仲間がいた」（61.3%）、「近所に遊べる公園や場所があった」（54.4%）が上位

■ 母親の遊び、子育てに対する意識

- 子どもの遊び相手は、平日でも「同年齢の子ども」（32.4%）、「異年齢の子ども」（15.7%）がともに半数を割り、3割近くの子どもが「1人で遊ぶ」と回答
- 母親が子どもの遊びに関して困っていることは、「同年齢/異年齢と遊ばせる機会が無い」（26.4%）が最多、次点で「どんな遊びをさせてあげればいいのかわからない」が20.0%

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査
 調査地域：全国
 調査対象：0歳（生後6ヶ月以上）から4歳のお子様を長子に持つ20代から40代の母親
 有効回答数：合計1,030サンプル（20代：412サンプル、30代：412サンプル、40代：206サンプル）
 調査時期：2016年4月中旬

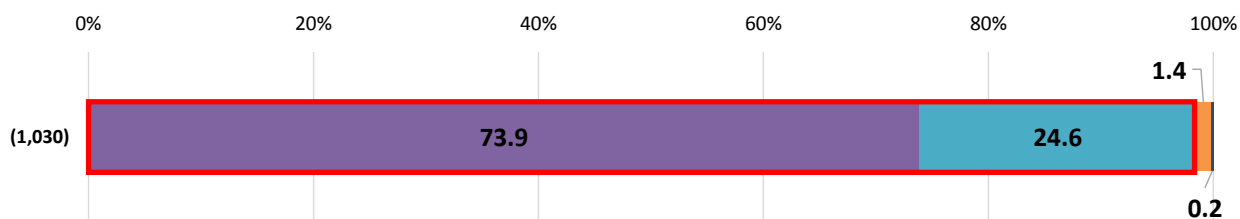
【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が 100 にならない場合があります。

子どもの外遊びの実態

ほぼ 100%の母親が「外遊びは重要」と認識

Q. 子どもの成長にとって、屋外で遊ぶことは重要だと思いますか。 ※携帯ゲームは含まない

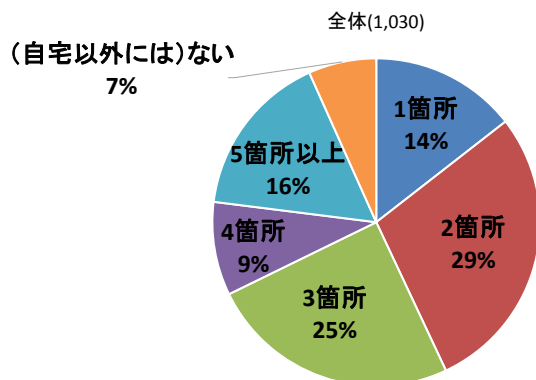
■ とても重要だと思う ■ まあまあ重要だと思う ■ どちらともいえない ■ あまり重要だと思わない ■ 全く重要だと思わない



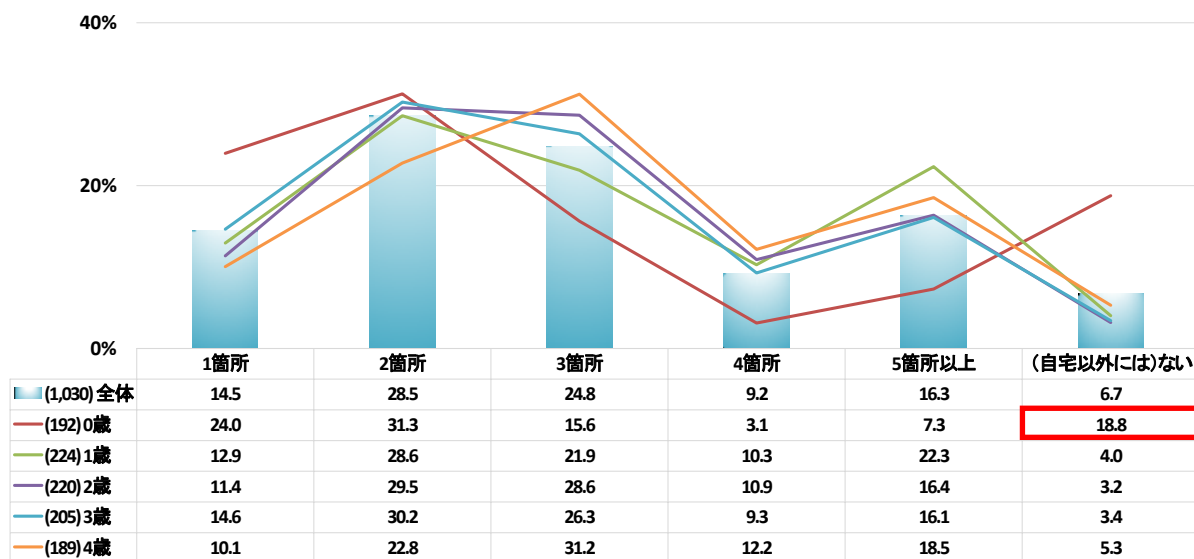
「とても重要だと思う」「まあまあ重要だと思う」が合わせて 98.5%となり、母親たちの外遊びの重要性に対する意識が高いことが分かりました。

一方、外遊びの実態は充分でない現状

Q. ご自宅以外で、お子様と日常的に遊べる場所はどのくらいありますか。



自宅以外の子どもの遊び場所の数を尋ねたところ、「2 箇所」「3 箇所」の回答が合わせて 54%と過半数を超える一方、「1 箇所」「(自宅以外には) ない」と回答する母親が合わせて 2 割以上いることが分かりました。また「5 箇所以上」は 16%に上り、子どもの日常的な遊び場所の数に格差があることが明らかになりました。

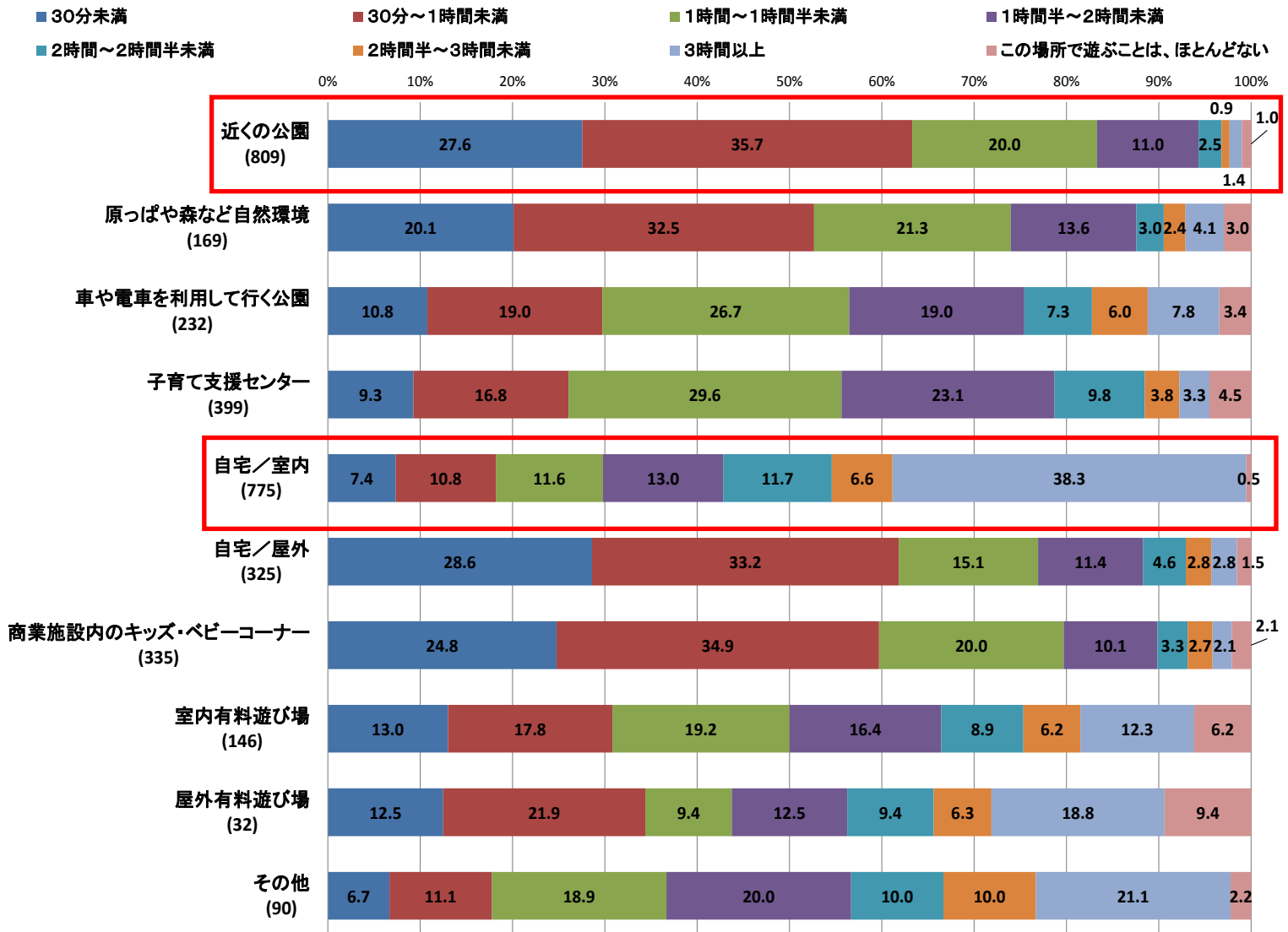


子どもの年齢別に内訳をみると、0 歳児の母親の 2 割近くが「(自宅以外には) ない」と回答。他の年齢群との差が如実となり、母親たちの遊び場所を求める潜在的なニーズがあることがうかがえます。

Q. お子様といつもどこで遊んでいますか。(複数回答)

また、そこで遊ぶ時間が一日に占める時間はどのくらいですか。

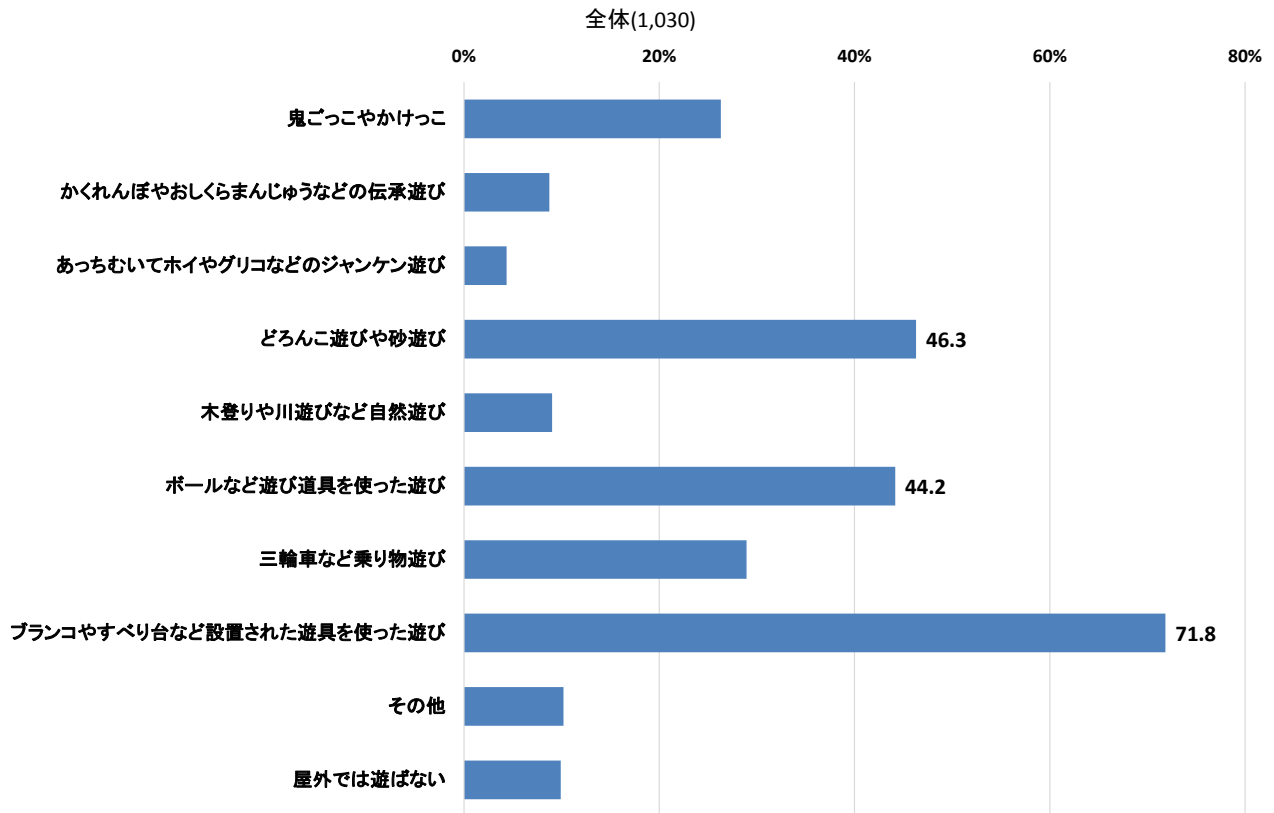
(その場所で遊ぶときの平均時間を回答)



遊ぶことの多い場所は、「近くの公園」「自宅/室内」がそれぞれ全体の7割に上りました。遊ぶ時間は、「近くの公園」では比較的短時間な「30分未満」「30分~1時間未満」が63.3%である一方、「自宅/室内」では「2時間~2時間半未満」「2時間半~3時間未満」「3時間以上」が合わせて56.6%となりました。多くの子どもが日常的に長時間、自宅の室内で遊んでいる状況が浮き彫りになりました。

2012年にボーネルンドが実施した調査でも9割以上の母親が「自宅/室内」で子どもを遊ばせており、約半数の48.8%の母親が「(自宅/室内で遊ぶ時間が)3時間以上」と回答しました。今回の調査では多少減少はしたものの、依然として乳児~幼児期の子どもたちは「自宅/室内」で遊ぶ傾向が高いようです。

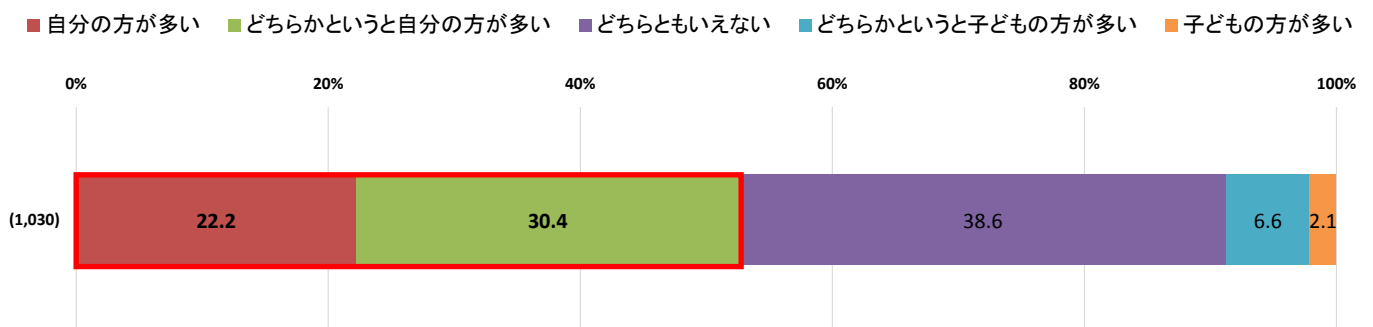
Q. 屋外でお子様遊ぶ際、どんな遊びをすることが多いですか。(複数回答)



屋外で遊ぶ遊びは「ブランコやすべり台など設置された遊具を使った遊び」が 71.8%と最も多く、「どろんこ遊びや砂遊び」(46.3%)、「ボールなど遊び道具を使った遊び」(44.2%)が続いています。公園に設置されている遊具や、ボールなどの遊び道具を用いた遊びが一般的である様子が見えます。

半数以上の母親が「自分の方が外で遊んでいた」

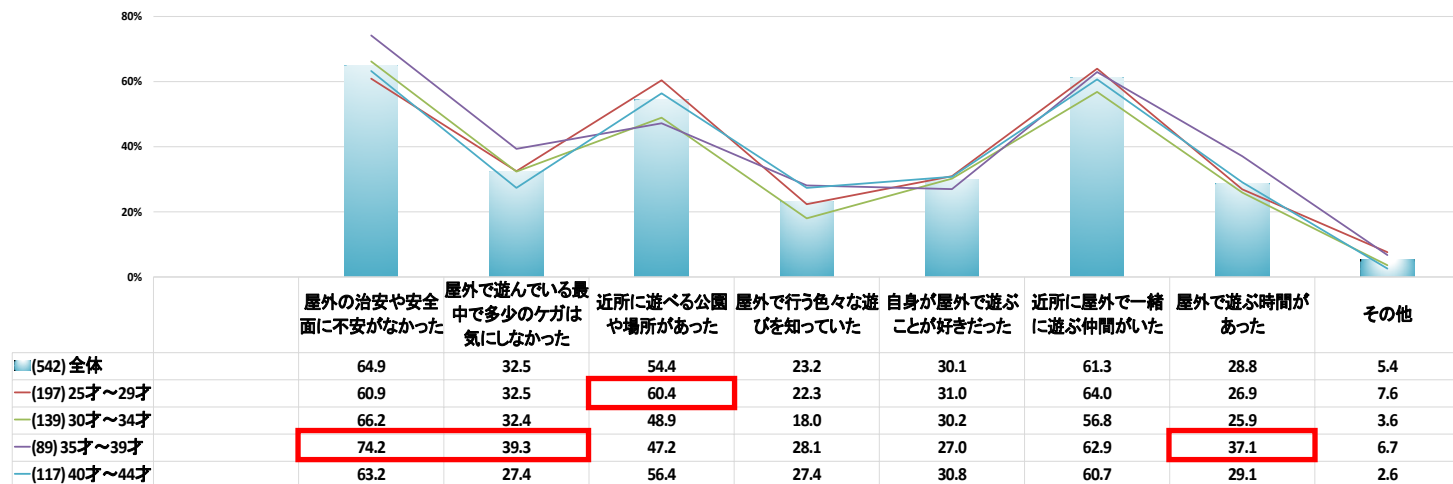
Q. 現在、お子様が屋外で遊ぶ機会について、ご自身が今のお子様と同じくらいの歳だった時期と比べて増減がありますか。



母親が自分の子どもくらいの年齢だったときの外で遊ぶ機会は、半数以上の 52.6%の母親が「自分の方が多い」「どちらかという自分の方が多い」と回答しました。20代から40代の母親が子どもだった時代と比べると、現在の子どもたちは外遊びの機会が減少している傾向が見えます。

Q. お子様¹が屋外で遊ぶ機会について、ご自身が今のお子様と同じくらいの年齢だったとき、「自分の方が多い」「どちらかという自分の方が多²い」と感じた理由で、考えられるものをお選びください。

(複数回答)



前問で、「自分の方が多²い」「どちらかといえば自分の方が多²い」と答えた母親に理由を尋ねたところ、全体的に「屋外の治安や安全面に不安がなかった」(64.9%)、「近所に屋外で一緒に遊ぶ仲間がいた」(61.3%)、「近所に遊べる公園や場所があった」(54.4%)が多い結果となりました。

また、母親の年代別にみると、20代は「近所に遊べる公園や場所があった」が6割を超え他の年代より高く、30代後半では「屋外の治安や安全面に不安がなかった」が7割以上、「屋外で遊んでいる最中で多少のケガは気にしなかった」と「屋外で遊ぶ時間があった」が4割弱で、他の年代に比べて高い割合となりました。

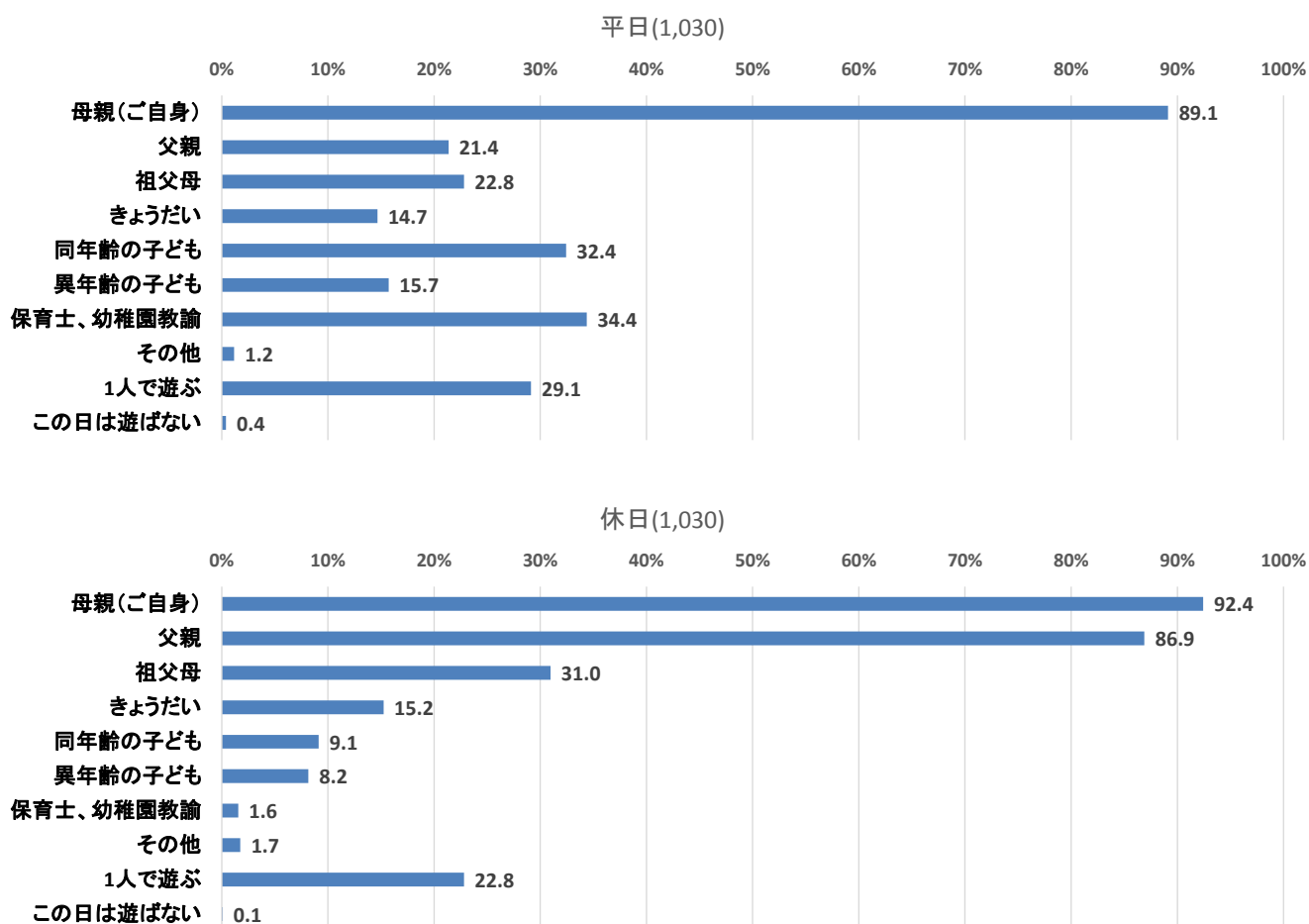
地域における治安や安全面に不安を抱く母親たちの意識に加え、身近に遊べる“三間(時間・空間・仲間)”が以前よりも不足している現状が、今の子どもたちの外遊びの減少に影響している背景として浮き彫りになりました。

母親の遊び、子育てに対する意識

遊び相手は母親でも、遊びの悩みは尽きず

Q. お子様は、いつも誰と遊んでいますか。（複数回答）

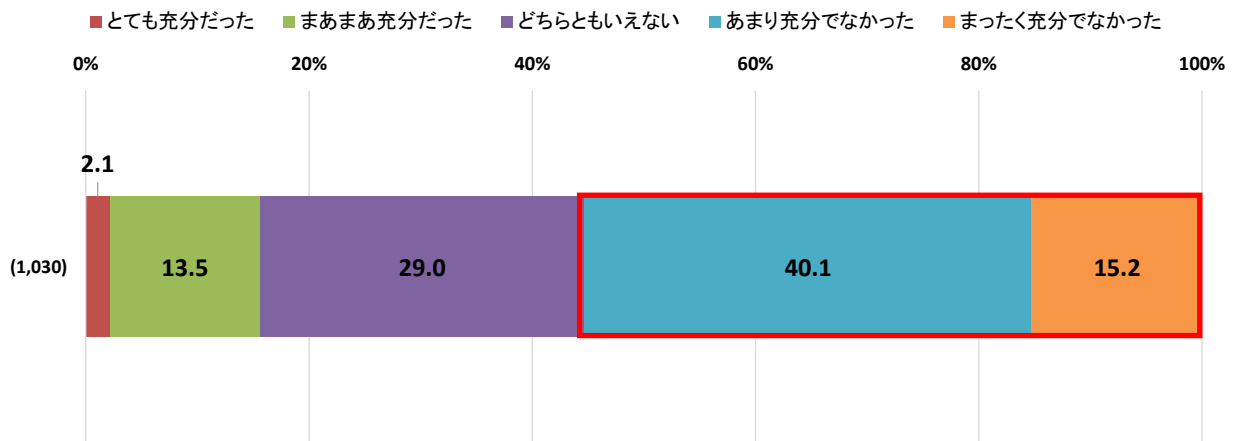
※この質問での「休日」は、配偶者（父親）のお休みの日を指します。



子どもの遊び相手は平日、休日ともに「母親（ご自身）」がおおよそ9割となり、平日は2割ほどの「父親」も休日は9割近い結果となりました。

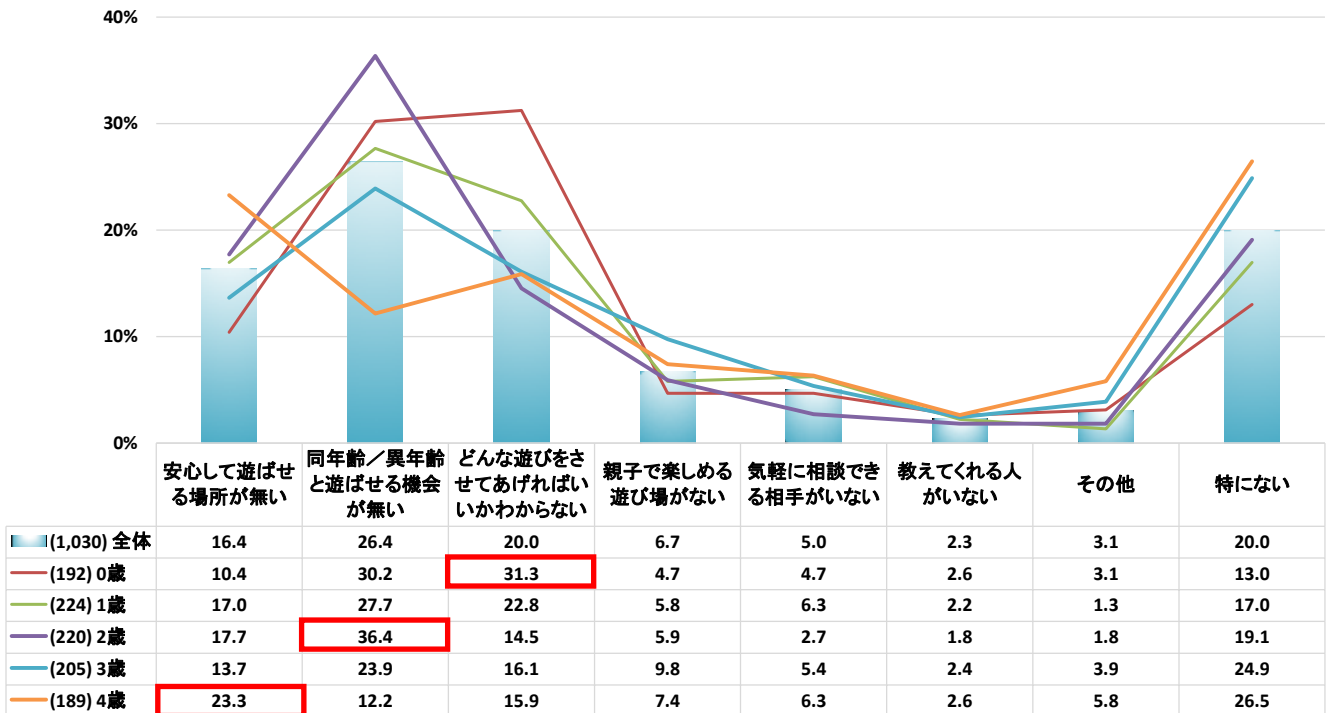
一方、平日でも「同年齢の子ども」（32.4%）、「異年齢の子ども」（15.7%）がともに半数を割っている点に加え、「1人で遊ぶ」の項目も平日で29.1%、休日で22.8%となっており、子ども同士で遊ぶ機会が少ない点に加え、遊び相手自体がない子どもたちの現状がうかがえます。

Q. お子様生まれる前に、「子どもの遊び」についての情報を得る機会は充分でしたか。



「子どもの遊び」について情報を得る機会について、「とても充分だった」「まあまあ充分だった」は1割に留まる一方、「あまり充分でなかった」「まったく充分でなかった」が合わせて55.3%に上りました。前問の結果のとおり、平日、休日ともに母親が子どもの遊び相手となる割合は高いですが、母親たちが子どもが生まれる前に遊びに関する情報を得る機会は充分でない状況が明らかになりました。

Q. お子様を遊ばせる際、1番に困っていることは何ですか。

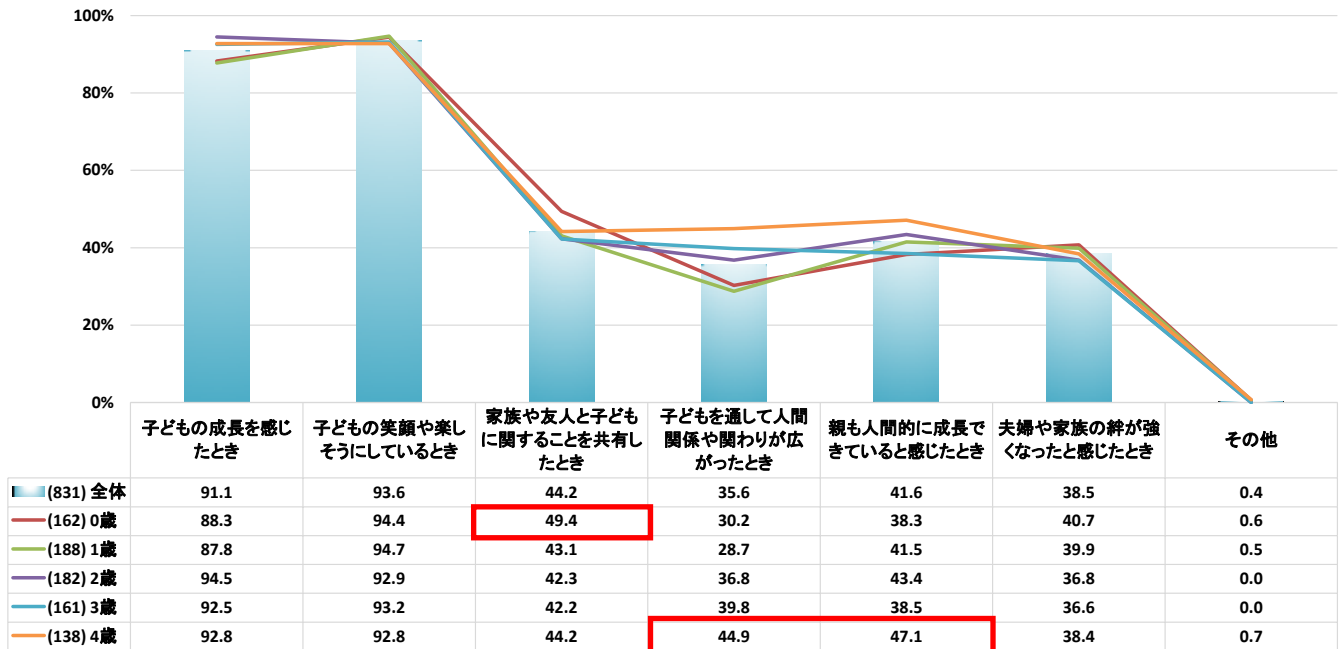


子どもを遊ばせる際に困ることを尋ねたところ、「同年齢/異年齢と遊ばせる機会が無い」が26.4%で最多、次点で「どんな遊びをさせてあげればいいのか分からない」が20.0%という結果になりました。

また、子どもの年齢によって違いが明確であり、子どもの行動範囲の広がる4歳児の母親は「安心して遊ばせる場所がない」(23.3%)、子育てを通して他者との接点も増えてくる2歳児では「同年齢/異年齢と遊ばせる機会が無い」(36.4%)、まだ子どもと接する経験が浅い0歳児の母親は「どんな遊びをさせてあげればいいのか分からない」(31.3%)が最も多くなっています。子どもの年齢や発達段階によって、遊びに関する悩みは異なる現状がうかがえます。

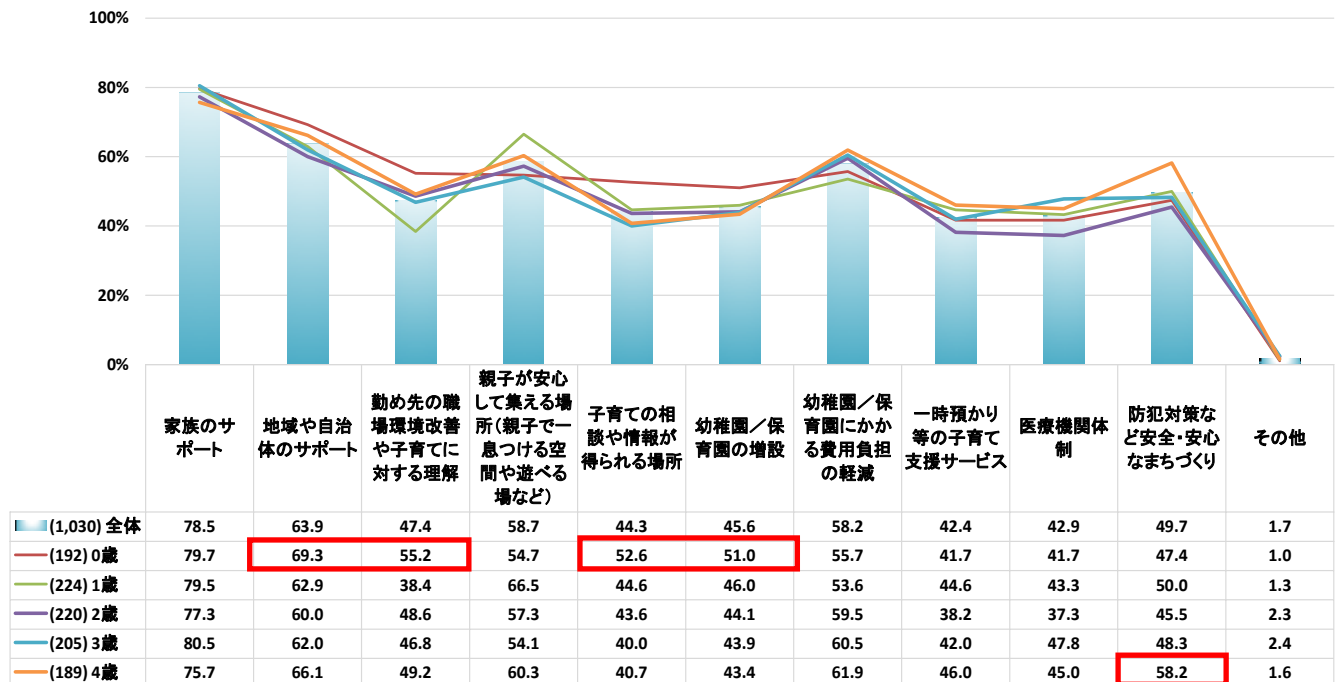
子どもの年齢によって意識やニーズに差

Q. どのような場面で、子育てが充実していると感じたり、喜びを感じたりしますか。(複数回答)



0歳児の母親では「家族や友人と子どもに関することを共有したとき」が半数近くの49.4%で他の年齢よりも高く、4歳児の母親で「子どもを通して人間関係や関わりが広がったとき」(44.9%)、「親も人間的に成長できていると感じたとき」(47.1%)が他の年齢よりも高くなっています。0歳児の母親は、初めての子育ての中で身近な家族や友人と子どもや子育てに関して共感できたときに喜びを感じる一方で、子育てを数年経験した4歳児の母親は、子育てを通して人間関係が広がったときや自身の成長を実感したときに満足感を感じているようです。

Q. 子育てがしやすい環境が整うには何が必要だと思いますか。(複数回答)



「家族のサポート」(78.5%)、「地域や自治体のサポート」(63.9%)、「親子が安心して集える場所(親子で一息つける空間や遊べる場所など)」(58.7%)がどの年齢でも高い割合となりました。年齢別では0歳児の母親が、他の年齢の母親よりも複数の項目で割合が上回る結果となりました。一方、4歳児の母親は、6割近くが「防犯対策など安全・安心なまちづくり」が必要と回答しています。子どもが生まれたばかりの時期は子育てのあらゆる場面でニーズを感じ、子どもの成長に沿って必要とするサポートの内容は変化していくことがうかがえます。

【 調査まとめ 】

今回の調査からは、ほとんどの母親が外で遊ぶことを重要視している一方で、子どもたちが遊ぶ場所は自宅の室内が多く、外遊びの機会は決して充分とはいえない現状が明らかになりました。子どもたちが今よりも積極的に外で遊ぶ機会を得るためには、自由に遊べる時間、地域で安全に遊べる空間、気軽に集える仲間の確保が課題といえるでしょう。また、子どもの遊びに関する母親の意識では、地域の治安や安全面を不安視する声や、日常的に一緒に遊ぶ仲間がいないことに加え、遊ばせ方の悩みを持つ母親が多いことが明らかになりました。母親が子どもの遊び相手になる機会は多い一方で、遊びに関する情報が母親たちへ充分行き渡っておらず、どのように遊ばせたら良いか思い悩む母親像が浮かび上がってきます。

ボーネルンドでは、今回の調査結果からも明らかとなった遊び環境が不足している現状に対応するため、行政や自治体との協業による遊び場づくりや、母親や子どものニーズに対応した新業態に積極的に取り組んでいます。

● 地方自治体との協業による遊び場プロデュース

人々が自然に集いコミュニケーションが生まれる遊び環境作りが、施設や地域の活性化につながり、地方再生への糸口となる可能性を有していることが、各自治体から注目を集めています。

① 「あかがねキッズパーク」(愛媛県新居浜市) 2016年4月15日オープン

施設の老朽化、利用者の減少が進んでいた、愛媛県新居浜市が運営する複合レジャー施設「マイントピア別子」のリニューアルに伴い、室内外の遊び場をプロデュース。木のぬくもりが感じられる室内遊び場を設置し、屋外も三世代が集える空間として設計しました。

② 「キッズランドおやま」(栃木県小山市) 2016年5月1日オープン予定

再開発を控える商業施設「ロブレ」内に、社会福祉法人洗心会が運営する関東最大級 2,000 m²の子育て支援施設の基点としてオープン。施設の集客力強化とともに、遊び場を求める子育て世代からの要望に応え、小山市が遊具設置費、運営費を負担する形で設置が決定しました。

● 乳幼児に特化した新業態「ボーネルンド トット・ガーデン」

乳幼児と保護者が心地良く、安心して過ごせる遊び場を提供するため、乳幼児と幼児に特化した新業態「トット・ガーデン」を設立。昨年10月オープンの1号店「レイクタウンアウトレット店」(埼玉県さいたま市)、今年3月オープンの2号店「ゆめタウン久留米店」(福岡県久留米市)、5月オープン予定の3号店「枚方 T-SITE 店」(大阪府枚方市)と各地に広がっており、小さなお子様と母親のリフレッシュや親子の交流の場としてご利用いただいています。

● 子ども関連フロアを全体プロデュース 「新しい公園」を提案

5月16日(月)に、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が大阪府枚方市にオープン予定の複合文化施設「枚方 T-SITE」5階にて、“子どもと学びフロア”全体のコンセプト立案から設計までを総合的にプロデュースしました。商業施設内の1フロア全体のプロデュースは初めてとなります。人々が気軽に集い子どもは自由に遊ぶことができるほか、子育て世代が訪れるとリラックスできて知的好奇心が満たされる、家庭や学校・会社等とは異なる「第3の場所」としての役割を果たす「新しい公園」を目指します。

今後もボーネルンドは、遊びが人々の生活の中でさらに身近な存在となり、社会インフラの一つとなるよう、遊び環境づくりに取り組んでまいります。

【ボーネルンドについて】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国83カ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千カ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。現在全国20箇所、年間273万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国32箇所、年間300万人以上の親子が訪れています。

《報道関係の方のお問い合わせ先》	
株式会社ボーネルンド 広報室 担 当：村上 T E L：03-5785-0860 E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp	株式会社ブラップジャパン 担 当：五味淵、池田、山口 T E L：03-4580-9104 E-mail：bornelund@ml.prap.co.jp
《一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)》	
株式会社ボーネルンド	TEL：0120-358-518